

はな ものがたり

花物語

Hana Monogatari

Flower Stories

はしがき

Hashigaki

Flower Stories



すずらん

鈴蘭

Suzuran

lily of the valley

はつなつ

初夏のゆうべ。

しち ひと

うつく

おな

としごろ

しょうじょ

七人 の 美しい 同じ 年頃 の 少女が

てい

ひつじ かん

ある 邸 の 羊館 の ー

しつ だか

ものがたり

室に集 うて、 なつかしい 物語 にふけりました。

Seven people の beauty same age の young lady が to be mansion

とき

その 時、 ー

ばん

ゆめみ

やさ

ひとみ

番 はじめに 夢見る ような 優しい 瞳 をむ

こうた

じゅう

ちょう

けて 小唄 の ような 柔 らかい 調 であ

はなし

話 をした の は、

ささしま (name)

笹島 ふさ子 さんという ミッション。

スクール

で ぼくし むすめ

出 の 牧師 の 娘で した。

—

わたし ころ おも で

私がまだ、それは 小さい 頃の 思い 出で
ございます。

ちち とうほく だい とかい きょうかい

父が 東北 の 大きい ある 都会 の 教会

で わたし

に 出 ておりました の で、私 も 母 といつしょにそ
の 町 住んで おりました。

まち す

その 頃、母は 頼 まれて 町 の 女学校 の

おんがく

音楽 の 教師 をつとめておりましたの、その 女学校 は
古 い 校舎 に 出 ておりましたので、私も 母といつしょ
にその町 に 住んでおりました。

その頃、母は頼まれて町の女学校の音楽の
教師をつとめておりましたの、その女学校は古い校
舎でして種(いるいる)々な歴史のある学校だつ
たそうでしたの。

母はうす暗い講堂で古い古い古典的
なピアノを弾き鳴らして毎日歌を教えていたの
です。

授業が毎日の午後に終わりますと、母はそのピアノ
の蓄をして鍵をかけ、銀鍵を自分
の袴の紐に結びつけて、家へ帰るのでした。

ある日のこと、校長室へ母は呼ばれました。

白いひげのふさふさとした校長は、変な顔をした
申しました。

貴女はあの講堂のピアノの鍵をお宅へおも
ちになりますか？ たしかに)

と、母は

(ハイ持って帰ります。)

と 返 事 を し ま し た。

そうしますと 校長は、ますますけげんな 顔をして、

(ハハあ、たしかに 鍵は 貴女 より 外 の 人 の
手 に 渡 さ ない の で す か)

といいます。

母はおかしく()いまして、

(私より外()もピアノ()は()ちません)

といいました。

校長は 首 を 曲 げ て、何 か 考 え て お り ま し た が、や が
母 に 話 し ま し た。

実は あの 講 堂 の ピ ア ノ の こ と で 不 思 議 な こ と が あ
る の で す。

毎日放課後、生徒が 皆 校 内 から 帰 つ て し ま つ て 校 舎
の 中 は 静 か に な つ て ゆ く、寄 宿 舎 の 生 徒 が 自 修
を 始 め る、す る と、ど う て す、人 つ 子 ひ と り 居 る は ず
の な い あ の 講 堂 か ら、
妙 な る ピ ア ノ の 音 が 響 き 山 る の で す。

はじめは寄宿舎の生徒たちも、誰かが鍵を先生から拝借して弾いているのかと思つたのですが、けれども、あんまり(--)の宵ごとに続くので怪しんだのです。

それで今日鍵のことを念のためにお伺い致してみたのです。

放課後みだりに講堂で勝手にピアノを鳴らせるのも、校則にはずれますからな)

と、■まわしに■■■は■をうたがっているらしいのです。■は■■■はたしかに■■■の■を■分で■ってかえります、どんな生■の手にも■■■で■してやるような、■■■なことはした■えがないのですもの、その■■■の話を■いた時、どんなに■■■に■ったでしょう。

これは■かが■に■び入るのであろうか？でも■は私の手■に■るのにどうしてピアノが■けよう、母は■えると、わからなくなりました。けれども、どうしてもピアノの■をあずかっている■■■として、■分のうたがいをはらさねばなりません。

母は、どうしてもその■■■なピアノの■をたしかめようと■■■しました。

そして、その■の夕、私をつれて■びやかに女学校の■に入りました。私と母は■の外の■に■をひそめておりました。それは夏の日でしたから、■のポプラやアカシヤの■が■かな■に■い■を■として、水をうったように■は■かでした。

私は母の手に■きよせられて■をこらしていいました。

ああ、その時、■の中で、■かにピアノの■のあく■がしました、そして、やがて、コロン。。。。コロン。。。。と、水■の■を■の■から、■りおとすようないみじくも■しい楽■の■は■からもれ■でました、それを■いた時、母の■は颯と■りました。

その楽は■な■の楽■に■い■だったので
す。やがてピアノの調はやみました。■が■もなく■くと見る中(うち)に、すらっと■け■た■、■の■ブロンドの■
！

■に■のように■き■た一の外■少女の倅(おもかげ)！

私は■わず、(あっ)と■をあげようと思いました、母はあわてて私を■きしめて■しました。

かの外■の少女は■わぬ物■に人の■をみとめたので
■■したらしくちょっと■ち■まりましたが、やがて■■の
■の■■に■なく■えゆくように■を見■いました。

母は■って、ただ、ため■をつくばかりでした。

母は■日■■にたずねました。

(あの■■のピアノは学校でお■めになったものですか？)

その時校■は■しました。

(いいえ、あのピアノは、よほど前のこと、■■■の■人で
■■へ■■■として■ていたマダム＊ミリヤという■人が
■■でなくなられた■、■■として■■されたものです)

母は、これを■いて、ほほえみました。

。。。。。。■日の■、いつもよりは、はるかに■らかに■れ
ふかく、かの■■のピアノはあやしき■手の■によって■っ
たのを、母は■■で■きました。

あくる■、母が■■して■■に■■を■ってはいります
と、ピアノの■の上に、■りもゆかしい■■の花、■■い
■■の一■が■いてありました。

そして、その花の■もとには■いリボンで■びつけられた一つの■の■がございました。その下に、うす■■の■■がはさんでありました。

母は■く■を、おし■めてひらきますと、■ぺんの■の■い■く■■な■■で、

■■をささぐ。

■■われを見■したまえる■に。

■きマダム＊ミリヤの子。オルテノ。

と、しるされてあったばかりでした。母はその時■■の花に■からの■物をして■ぐみました。

そして、その日かぎりもう水■に、■ごとに■りし■しいピアノの■は■くことはありませんでした。

■で■けば、その■き日に■■に■るため、その■を■ち■った■■の少女があったと■えられました――。

(■■。。。。。■き■■の美■の■――に、■しきかのピアノの■■の■オルテノ■を、私は今もなお■びます――)

ふみ子さんのお話はかくて■りました。■をこらして■きほれていた■の少女たちは、ほっと一■に■■をつきました。

■■■■の■が■かにさすばかりで、■ひとり■■を■すものもなく、たがいに■れに■んだ■い■を見かわすばかりでございました。

Direct Translation

Early Summer's Evening,

Seven people of beauty same around the age of 17 there is a mansion of sheep home (soften) -

Gather in the room

[How is no used in a sentence?](#)

When no is used between two nouns, it's a possessive.

初夏のゆうべ。

Early Summer's Evening

When no is used between a Verb and Adjective

七人 の 美しい

7 Beautiful People

まほうの とびら

mahou no tobira

a magical door

Mahou (magic) is a noun, but it's being used like the adjective magical, which doesn't exist in Japanese. And while "mahou no hon" could be

"a book of magic" (filled with spells) or "a magic book" (itself enchanted),

the "of" interpretation for no does not exist in every case.

[Saying no at the end of the sentence.](#)